

【新潟県都市緑花センター・越佐昆虫同好会】

佐潟公園内自然生態観察園の活用について

1 概要

佐潟公園内にある自然生態観察園を積極的に活用し、豊かな生態系を創出するとともに、希少動植物などが生息・生育できる環境の復元に取り組む。

2 平成 29 年度実績

第 25 回協議会において活動計画を報告後、以下の作業を行った。

(1) ヨシ刈り等整備

○平成 29 年 9 月に佐潟と歩む赤塚の会と相談し、潟普請と連携しながらヨシ刈り等の整備を行った。また整備後には活動内容を紹介する看板を池周辺の 3 か所に設置した(看板は 12 月に一時撤去し、4 月に再度設置する予定)

(2) 浚渫土壌の搬入

○平成 30 年 3 月 15 日に浚渫土壌の搬入を行った。浚渫土壌は砂地を中心に移動し、池の一部に緩やかな傾斜をつけるように搬入した。

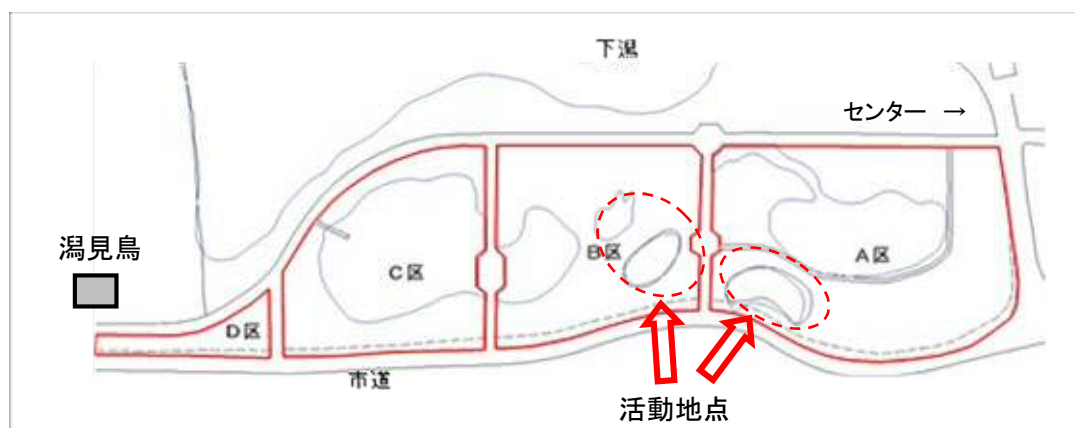


図. 自然生態観察園の活動場所

3 平成 30 年度活動内容 (案)

(1) ヨシ刈り等整備

○ヨシが生育する 4 月から経過を見ながらヨシ刈りを実施。オオヨシキリの営巣が始まる前に一度刈り取るなど、9 月までに 3 回刈り取りを実施する予定

(2) 生きもの調査

○池にどのような生きものが生息・生育しているのか調査を実施

(3) 希少植物等の移植

○佐潟および佐潟周辺に生育している希少植物のうちエコトーンに生育できそうな種類を選定して移植する。また移植後は生育状況を調べる。

(4) 活動内容を周知する看板の設置

○池周辺に活動内容や将来像などを説明した看板を設置し、来園者に周知を行う。

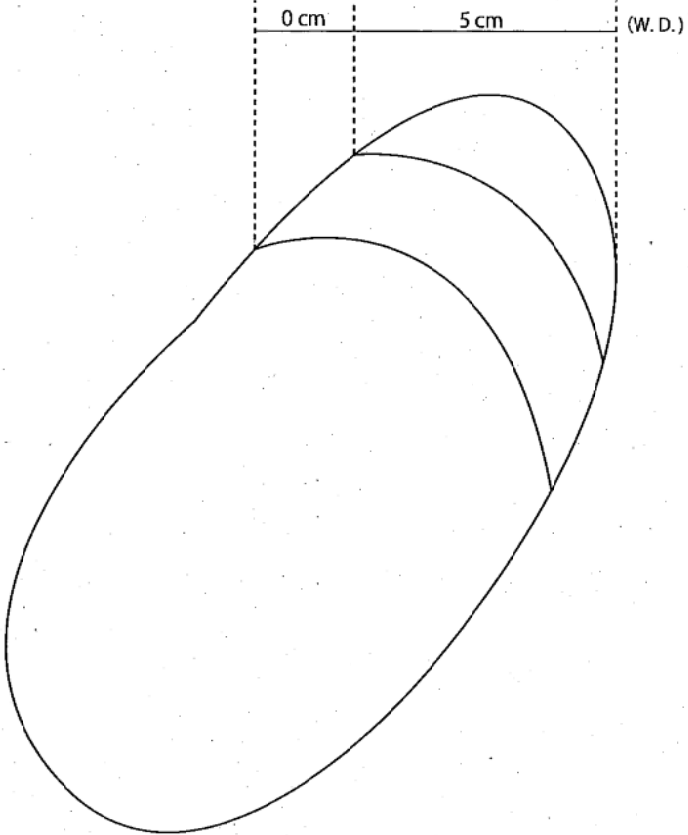
佐潟生態園エコトーン

※植物の種子発芽は水深による影響を受け、水深 ±0 cm・5 cm以下で発芽する種が異なるため、エコトーンの一部に水深の段差を設ける。

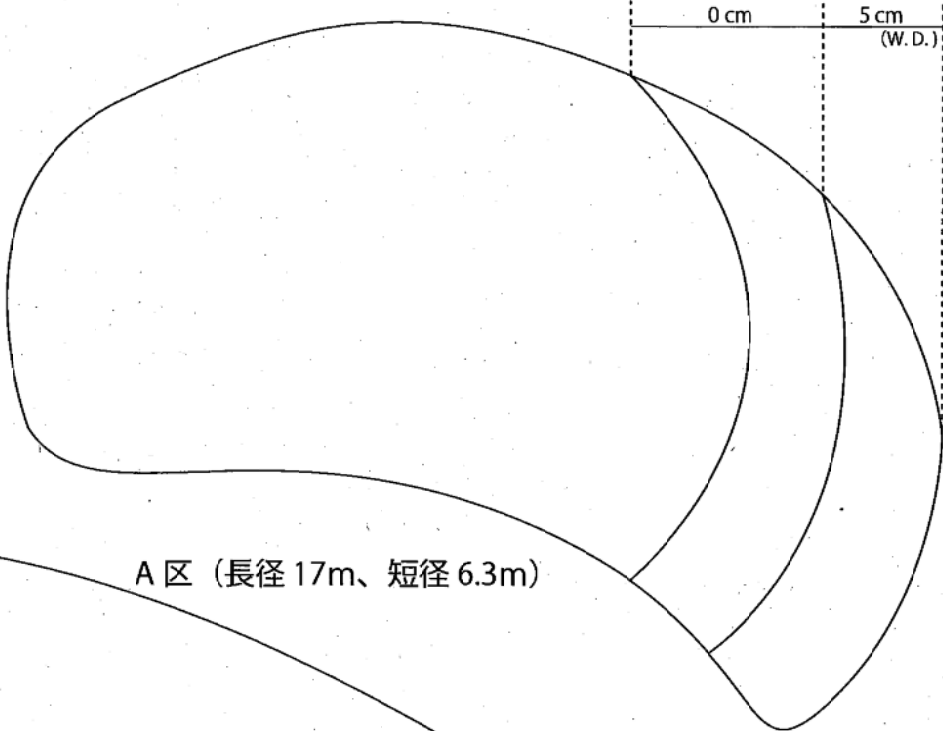
エコトーンの水位は季節ごとに大きく異なると思われるが、3月13日、14日に計測した水位を水深0 cmとして水深を定める。

水深の境界には土砂の流出を防ぐため、必要な場合は、杭および波板で土留めを行う。

木道



B区 (長径 14m、短径 6.5m)



A区 (長径 17m、短径 6.3m)